

本町だより



横浜市立本町小学校

平成20年12月1日発行

第445号

「心を豊かにする」ということ

副校長 副島 江理子

6月中旬より、続いてきた本校の増改築工事が、11月いっぱいまで終了致しました。(まだ、若干の手直し等は残っております)

約半年間に渡る長い期間、近隣の皆様をはじめとして地域の皆様には多大なるご迷惑をおかけ致しました。ご理解・ご協力ありがとうございました。また、子どもたちの学校生活に配慮しながら、丁寧に工事を進めてくださった工事関係者の皆様、学校生活を送りながらの大規模工事にご理解を示していただき、子どもたちの生活を支えてくださった保護者の皆様、本町にありがとうございました。こうした温かいご配慮のもと、子どもたちも、一人ひとりが安全に気を付けて学校生活を送ることができました。いつもとは違う環境のもとでも、しっかりと生活を送ってきた本町小の子どもたちも、大変素晴らしかったと感心しております。

さて、最近の本町小学校では、朝の「おHappy活動」や休み時間の「ブックランド」、ハートフルチーム主催の全校集会や、恒例となったイリーナ・メジャーエワさんの特別授業など、充実した活動が行われております。

「おHappy活動」では、登校時、6年生が下学年をリードして、正門で明るい挨拶をしてくれています。初めて「おHappy活動」をする1年生に、優しい声をかけてくれる6年生もいて、その6年生の晴れやかな笑顔に、こちらの心も温まります。

11月の生活目標は「心を豊かにする生活をしよう」でした。毎日、いろいろな学年の子どもたちと接しながら、「心を豊かにする」とこととはどういふことを考えました。

「ブックランド」では、図書委員会の子どもの工夫を凝らした催しに、目を輝かせて参加

する低学年の子どもたちの姿が目立ちました。全校歌集会では、子どもたちは、全員で声を揃えて歌うことに心地よさを感じている様子でした。

また、「たてわり鑑賞文交換会」では、ペアになって、作品展の作品の鑑賞文を互いに発表し合いました。互いのよさを伝え合うことに恥ずかしさを感じながらも、きちんと伝えられた充実感、自分のよさを伝えてもらった嬉しさを感じ取った子どもたちも多かったと思います。イリーナさんへの「お礼の手紙」からは、演奏に感動した気持ちを、自分の持ち得る最高の表現を使って書こうという、5年生の切々とした思いが伝わってきました。こうした子どもたちの姿から、人の心は「人のかかわり」を通して豊かに育まれるものだとすることを改めて強く感じました。

子どもたちからは、本を読むことや自然・動物に接することで心が豊かになったという話も聞かれました。他にも自分のめあてに向かって粘り強く取り組むこと、試練に立ち向かって乗り越えることなど、いろいろなことが人の心を強く、豊かにします。しかし、友だちから優しい声をかけてもらったときの嬉しさ、温かい表情で受け入れてもらったときの安心感、友だちのために何かしてあげたときの自己有用感、互いに力を出し合ってきたときの連帯感、達成感など、子どもたちは、日々の学校生活のあらゆる場面で、友達や周囲にいる人と共に「心温まる瞬間」をたくさん経験していくことで、心を豊かに成長させていくのではないのでしょうか。

12月を迎え、ますます寒くなりますが、本町小では、「心は温かい」をテーマに、子どもたち同士の「豊かなかかわり」を大切に、充実した学校生活を築いていきたいと思っております。